

まい 埋やち

No.17
千葉県八千代市
埋蔵文化財通信

2008.4.30

平成19年度を振り返って

平成20年度が始まり、早1か月が経ちました。今回は、平成19年度を振り返ってみたいと思います。

発掘調査

発掘調査は、11遺跡13地点の調査を行いました。4月と5月には萱田町の川崎山遺跡n地点、大和田新田の向山遺跡e地点・f地点、小池の作山遺跡c地点の確認調査を行いました。

3月、4月、5月の確認調査の結果を受け、5月～7月には、川崎山遺跡m地点・n地点の本調査を行いました。m地点では川崎山遺跡としては珍しい縄文時代中期の集落が調査され、n地点では弥生時代や古墳時代の竪穴住居跡等を調査しました。また、同時期に平行して、村上の白筋遺跡b地点の確認調査を行いました。

7月～8月に、白筋遺跡b地点で、奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡の本調査を行ない、吉橋地区では、内野南遺跡d地点の確認調査を行いました。

9月、10月、11月は、神野の役山東遺跡b地点、保品の保品南遺跡、萱田の白幡前遺跡c地点、佐山の道地遺跡e地点の確認調査を行いました。また、10月～11月には、吉橋の妙見前遺跡b地点の本調査も平行して行ない、戦国時代の堀の跡を調査しました。

12月～1月には、内野南遺跡d地点の本調査を行い、縄文時代前期の集落を中心に

調査することができました。

2月には米本の蛸池台遺跡の確認調査を行いました。

3月には、10月の確認調査の結果を受け白幡前遺跡c地点の本調査を実施し、奈良・平安時代の住居跡4軒などを調査しました。

整理作業

9月以降は整理作業が多く行われるようになります。まず、7月～8月に調査した白筋遺跡b地点の整理を行いました。

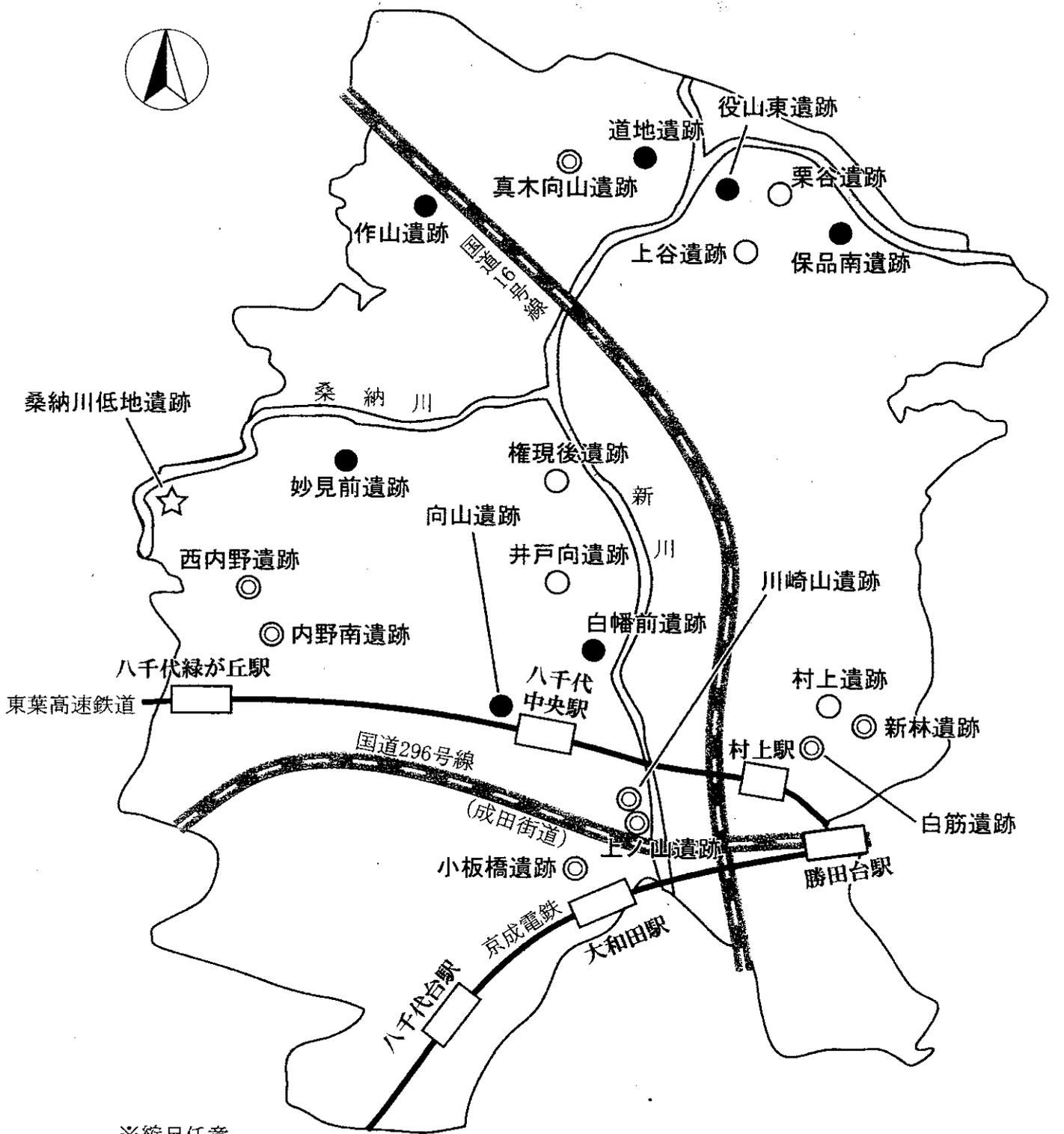
10月からは、ヲサル山南遺跡など、17年度・18年度に千葉県の補助金を受けて確認調査を実施した遺跡群をそれぞれ報告書にまとめ、3月に刊行しました。

11月に、上高野の新林遺跡c地点、吉橋の西内野遺跡の発掘調査報告書が刊行されました。両遺跡とも縄文時代を中心とした遺跡で、近年、八千代市でも縄文時代の遺跡の様相が明らかにされつつあります。

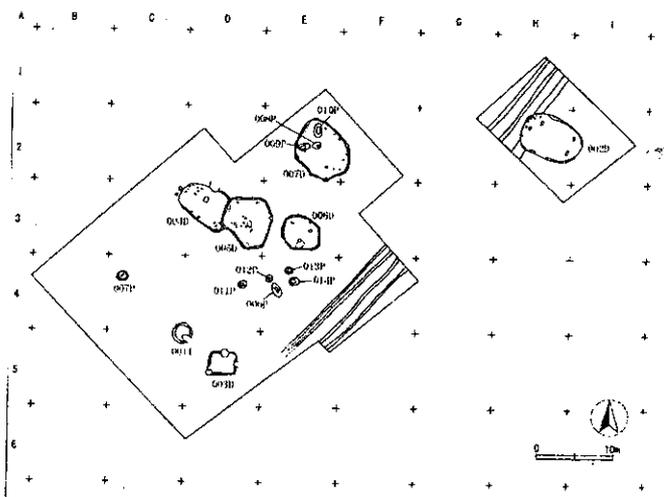
12月からは、5月～6月に調査した川崎山遺跡m地点の整理作業を始め、3月まで行いました。

1月～3月にかけては、整理作業のラッシュとでもいうべき状態で、川崎山遺跡m地点・白筋遺跡b地点の整理に加えて、妙見前遺跡b地点、川崎山遺跡n地点、内野南遺跡d地点の整理を行いました。更には、18年度に国・県の補助金を受けて確認調査をした7遺跡を報告書にまとめ、3月に刊

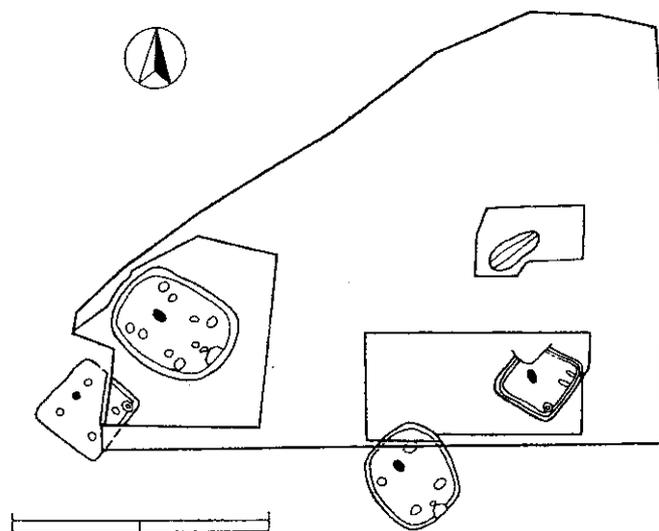
平成19年度に調査・整理等を行った遺跡



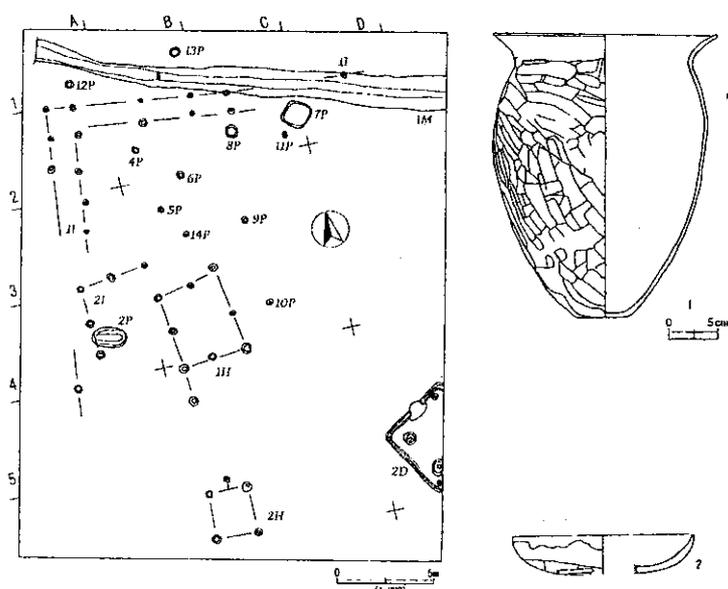
※縮尺任意



川崎山遺跡M地点



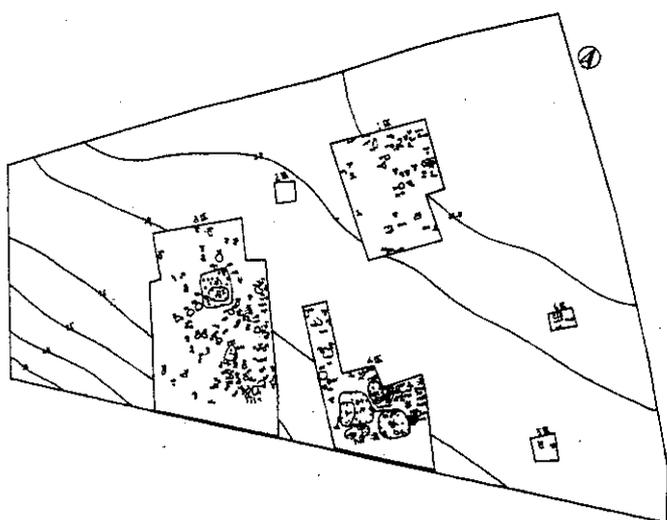
川崎山遺跡N地点



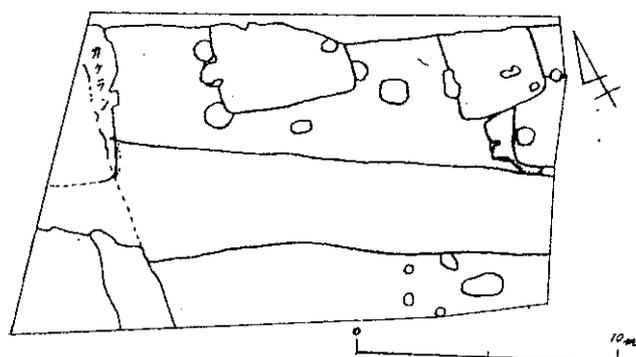
白筋遺跡B地点



妙見前遺跡B地点



内野南遺跡D地点



白幡前遺跡B地点

行しました。

その他、佐山の真木野向山遺跡、大和田の小板橋遺跡、萱田町の上ノ山遺跡の整理作業が行なわれ、報告書として刊行されました。

普及啓発、その他の事業

普及啓発事業として、4月に文化財担当職員が市内の小学校で八千代市の文化財についての出前講座を行い好評でした。

本調査を実施した周辺の皆さんを主な対象にした遺跡現場説明会については、19年度に実施した本調査6件の内の3地点で実施しました。6月に川崎山遺跡m地点で、7月には川崎山遺跡n地点で、そして1月には内野南遺跡d地点で行いました。

7月には、千葉県北西部地区の文化財発表会が鎌ヶ谷市で行われ、八千代市は「村神郷の鉄事情」と題して、発表と出土遺物の展示などを行いました。

また、19年度は、八千代市に收藏されている資料の貸し出しなどが目立ちました。

5月には栗谷遺跡出土の弥生土器が考古学の専門誌の表紙に掲載され、7月には同じく栗谷遺跡出土の弥生土器が市内の東京成徳大学の構内で展示されました。

7月には萱田の八千代市文化伝承館の下から出土した権現後遺跡の土器等を同館に展示しました。現在も展示中なので、お立ち寄りの際は是非ご覧ください。

9月から10月にかけては、千葉県立房総のむらの資料館で企画展「住まいを読む」

が開催され、八千代市からは井戸向遺跡出土の奈良・平安時代の火打石などが解説シートに掲載されました。

また、井戸向遺跡出土の墨書土器は、小学館の『日本の歴史』に掲載され、2月に刊行されました。上谷遺跡の全景写真も『ふさの国 今昔』という千葉県教育委員会発行の冊子に掲載されました。

10月～12月には佐倉市の国立歴史民俗博物館で企画展「長岡京遷都一桓武と激動の時代」が開催され、村上込内遺跡出土の奈良・平安時代の壺が展示されました。

また、昨年度から、千葉県等で調査されてきた縄文時代後晩期を中心とした桑納川流域の低地遺跡では、今年度に入り明治大学の杉原教授らによる学術的なボーリング調査が実施されました。

その他、年度後半には、川崎山遺跡n地点から出土した炭化材の保存処理を行いました。

終わりに

以上、駆け足ではありますが、平成19年度を振り返ってみました。19年度は、野外調査が多く、整理作業に苦勞した1年でした。そうした中、啓発事業が比較的多く実施できたかと思われます。

相変わらず、開発に伴う緊急調査が多い現状に変わりはありませんが、本年度は、野外調査をはじめ、整理作業・普及啓発事業にも19年度にもまして、より積極的に取り組んでいきたいと思ひます。(宮澤)



たかつひめ

編集後記

今回は、緑が丘周辺の遺跡の一つ、内野南遺跡を特集します。本年度もよろしくお願ひします。

埋(まい)やちよ No.17

—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—
平成20年4月30日

編集・発行 八千代市教育委員会
教育総務課 文化財班

八千代市大和田138-2

☎276-0045 ☎047(481)0304